



会員ニュース



南雲一廣先生の信条 ヴォックスの芸術吟詠で人の心に息吹を与えて荒廃した人心を詩吟の魂で生き返らせたい。

【錦帯橋】

提供 副会長 本田天水

周防岩國藩第三代の藩士、吉川広嘉が、何時の頃から錦帯橋のような奇抜な橋の構築を考えたのか、定かではないが、後世の人達が、その文化遺産の素晴らしさを再認識するところを見ると、広嘉公は、並みの人物ではなかったと言える。「五月雨をあつめてはやし最上川」の芭蕉の句を持ち出すまでも無く、日本の川は、ゆったりとした感じのものは無く、中国山脈に源を発する「錦川」もその例外ではない。名勝「錦帯橋」も錦川の水量多く、急湍なるが故の産物といえるのである。この美しい名を持つ川「錦川」は、山口県最大の川で、波長一二四km、流域八六四平方kmを有し、瀬戸内海に注ぐ。花崗岩のサンカイを潜って流れるせいか、掬って飲めるほどに清澄であるが、一旦降雨が続くと、まるで狂ったように濁流滔滔として水嵩を増す。この錦川の河口に発達した城下町が岩国市で、錦帯橋は、城下の門前橋として誕生した。延宝元年（一六七三）吉川広嘉（前述）によって、創建されたが、翌延宝二年春一部流失、その年のうちに再建され、以来二七六年間不落を誇ってきたのであるが、昭和二五年（一九五〇）九月一四日、中国地方を襲ったキシマ台風によって、惜しくも流失。昭和二八年一月一五日に二代目として、再建された。その後、老朽のため平成一四年、一五年、一六年の三年をかけて三代目として、架橋され現在に至っている。

創作漢詩

近畿地区 ……二題……

懐風吟詠会 相談役 **北野 崖城**
きたの がいじょう

偶 感

斯道残生翰墨縁

しどうさんせい かんぼく えん
 斯道残生 翰墨の縁

難酬風雅未能捐

むく がた ふうが いま ずつ あた
 酬い難き風雅 未だ捐る能はず

草廬日暮煎茶坐

そうろにちぼ ちや た さ
 草廬日暮 茶を煎て坐し

一啜忘機自浩然

いっせつしき わす おのすか こうぜん
 一啜機を忘れ 自ら浩然たり

語釈

斯道……この道。携わっている技芸の道。

翰墨……筆と墨。転じて詩文の世界。

風雅……詩経の国風と小大雅。転じて風流で雅かな詩文。

解説

吟詠を通じて詩に出会い、人生の感興を詠しても、まだ

まだ大した妙味も賦してはいない。この世に生きている
 ということは、丁度大きな夢を見ているようなもの。

楽しみで始めた文雅の世界。この歳になれ、「その夢
 のような人生」を憧れ、時にはのんびりと又ぼんやり

とお茶でも飲んで、つかの間の充足を実感したいもの
 だ。



京都祇園祭

(平成二十年七月)

祇園祭禮閲千年

ぎおん さいらい せんねん けみ
 祇園の祭礼 千年を閲し

古式綿綿萬古傳

こしきめんめん ばんこ つと
 古式綿綿 万古に伝う

絢爛豪華連紫陌

けんらんこうか しはく つら
 絢爛豪華 紫陌に連なり

路傍歡賞樂陶然

ろぼう かんじょう らくどうぜん
 路傍の歡賞 樂陶然

語釈

祇園祭礼……平安時代におこり、現代も盛大に催され
 る京都祇園会

千年を閲し……千年を経過する意

紫陌……都の市街(陌は、道の意)

解説

今を去ること千百年余、天下に疫病が流行した。世

人は、これを神の祟り(御霊)と考えた。そこで鉾

をたて神輿をかつぎ、祈りによって、その祟りを祓

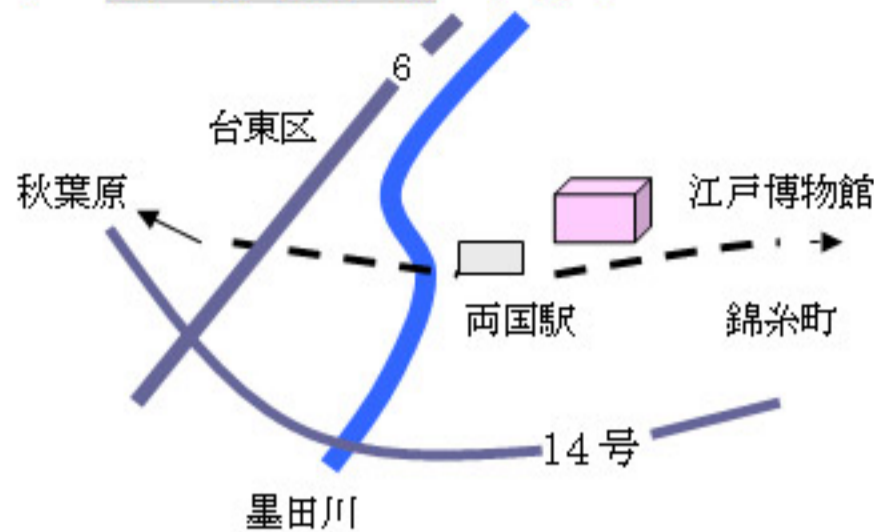
おうと考え「祇園御霊会」が起ったと言われている
 だ。七月十七日酷暑の中、平和で幸せに暮らせるこ
 とを祈りつつ、壮麗な祭を堪能しました。

ヴォックス音楽吟詠会・・広報部・・

各地区のニュースや各流会派の催しなどの情報をお待ちしています。自由投

稿も歓迎しております。事務局 090-8184-2642 FAX 059-346-5639 (一木翔雲)

♪♪♪ 会場案内 ♪♪♪



南雲一廣先生の奥様
南雲ミイ 様からのお礼状
四月三十日・墓参記事を掲載させて戴きましたので、五五号会員ニュースを差し上げました所、岩淵公胤会長あてに、墓参感謝のご丁寧なお礼のお葉書を下さいました。「三十周年にあたって、会員先生方の御蔭です。天国で喜んでいてくれるでしょう」とのお言葉でした。

東京-----秋葉原-----両国

- 1 JR山手線内回り JR総武線
2駅 津田沼駅 2駅

東京-----お茶ノ水-----両国

- 2 JR中央線（中央特快） JR総武線
高尾行 2駅 津田沼駅 2駅

古典文学 枕草子

素晴らしい日本文学を、ご紹介し、親しみ楽しんで頂きたいと願って連載します。参考文献
改稿 枕草子通解 転載
昭和三十年十一月発行
著者 金子元臣・橋 宗利
広報委員

第一段 春はあけぼの

春は、曙。やうやうしろくなりゆく山際少しあかりて、紫だちたる雲の細くたなびきたる。夏はよる。月の頃は更なり、闇もなほ、螢飛びちがひたる。雨などの降るさへをかし。秋は夕ぐれ。夕日花やかにさして、山の端いと近くなりたるに、鳥の寝所へゆくとして、三つ四つ二つなど、飛びゆくさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと小さく見ゆる、いとをかし。日入りはてて、風のおと虫のねなど、いとあはれなり。冬はつとめて。雪の降りたるはいふべきにもあらず。霜などのいと白く、又さちでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびでもてゆけば、炭櫃、火桶の火も、白き灰がちになりぬるはわろし。

口語訳 春は明け方がよい。次第に白く成って行く山際が、少し明るくなつて、紫がかつた雲の細く横になびいている（のが、素晴らしい）夏は夜（がよい）月のある時分は勿論のこと、闇の夜でもやはり、螢が飛びちがっている（のも面白い）（それに）雨などの降ることまで興がある。秋は夕暮（の趣が面白い）夕日が派手やかにさして、山の端にずっと近づいているところ、鳥がねぐらに帰ろうとして、三羽、四羽、二羽という形で飛んでゆくのだが面白い。それにも増して雁などの列をなしているのが、（遠ざかりつつ）大変小さく見えるのは実に風情がある。日が沈んでしまつて、（聞こえてくる）風の音や虫の声など、まことに感興が深い。冬は早朝（がよい）雪の降っている時（の面白さ）は、いい立てるまでもない。霜などが真っ白で、又そうで無くてもひどく寒い折に、火などを急いでおこして、炭をもつて（殿中あちこち配って）歩くのも似つかわしい。昼になってやや暖かく寒さがゆるんで行くと、炉や火鉢の火も、（かまひ手がなく、消えかかつて）白く灰がちになつてしまつたのは、これはいけない。

会長 岩渕八胤

「さりげなく」

人の言葉を・おろそかに・

聴き流すなく・学び行かなん

日頃は、ヴォックス音楽吟詠会に、各地区本部長はじめ、会員の皆様には、ご支援・ご協力を賜っております事に、改めて感謝と御礼を申し上げます。

全国執行部会も総本部のもと、中部地区のご理解あるご尽力によって開催された。執行部始め、中部地区会員の皆様の献身的なお力添えのお蔭です。重ねて感謝申し上げます。

ヴォックス音楽吟詠会は、「心豊かな心の温かい人達の集まり」であり、人様の話をよく聴き、良い所を吸収し合い、そして何でも言える、他の団体に無い素晴らしい団体です。南雲一廣先生に受けたいご恩を忘れる事無く、一つ一つの行事を皆様と共に進めさせて頂いておりま



心豊かに

大きな行事を、東京地区担当のもと、「江戸東京博物館ホール」で開催の予定になって居りますが、その節は会員の皆様の絶大なるご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

ヴォックス音楽吟詠会は、個人の吟も良し、さらに複数の吟、連吟、合吟、そして男女で和音を使った吟が出来れば、幅のある鑑賞に値する吟が出来るのではないのでしょうか。吟剣詩舞の明日を信じ、今年はお互いに「人生における最盛期」そういう思いを持つ事が「旬」を迎えられるのではないのでしょうか。

今後更なるご指導・ご鞭撻と併せ、ご支援・ご協力を賜りますよう、どうぞ宜しくお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。

事務総長 草薙典龍



前進しましょう。

暖冬のまま春を迎えることが出来そうですね、会員各位には、ご健勝のことと存じます。さて、二月二十七日、ヴォックス音楽吟詠会・執行部会議を開催し、事業報告・新年度予算について承認して戴きました。懸案事項については、事務総局として素案づくりに腐心して参りましたが、今年度として着実な改革案が提示出来たと考えております。また吟詠剣詩舞界の問題、特に斯道活性化・組織人員の増加という念願は、昨今いずこも高齢化や多趣味、若年層の資質低下など多くの壁が立ちました。大変苦しい状況です。ヴォックス音楽吟詠会としましては幸いにも、昨年度八名の正会員入会がありました、会員増加の傾向となっております。組織充実の為、今年度は会則の見直しを行っております。組織充実の為、今年度は会則の見直しを行いました。執行部会議は、次回の平成二十一年度から、全員総会となります。事前に正会員宛、総会通知をお届け致しますので、その節は是非ご出席をお願いしたいと存じます。もう一点は、岩渕会長も折に触れて

申されておりますが、会員の皆様からの有意義で自由なご意見を、拘り無くどしどし御提示賜りたいということであります。「ヴォックスは、明るく、何でも意見を発言できる」という風潮の形成です。そうして吟詠界を発展させる。特に、ヴォックスを通じて、そうありたいと念願しておりますが、これは全会員諸先生方の絶大なるご理解ご協力が必要であります。さらに現況下に於いては、ヴォックスの課題も御座いますので、着実に改善できますよう、事務総局の委員構成に留意し実行して参りたいと存じます。お願いが多くなりませんが、本年度の吟詠コンクールに、先ず予選参加者のより一層多くの参加をして頂くようPRをお願い致します。会報の充実化の他、本年度より、ホームページを開設することとなりましたが、これらは、会員総参加のヴォックス音楽吟詠会のステータスアップを図ろうとする試みです。会員各位のご理解とご協力を心より感謝申し上げます。新年度に向かいたいと存じます。

総本部の組織

会長 岩淵公胤

名誉会長 清水源翁
(相談役 兼務)

事務総長 (副会長兼務)
草薙典龍

顧問 黒沢吼風
参与 柴田旭旺
参与 渡辺賀鏡

副会長 岡田岳龍 副会長 本田天水

監査 石井岳粹

監査 多田羅心龍

副事務総長 大塚龍伸

地区	東京	中部	近畿	西中国	北関東	信越	神奈川	播磨	群馬
本部長	寺橋暁穂	草薙典龍 (兼務)	岡田岳龍 (兼務)	本田天水 (兼務)	生天目輝風	中山国洲	(代行)・事務局長	松井賀鶴	国分国壮

ご案内

記念出版

吟縁四季

副会長・近畿地区本部長

岡田岳龍先生

吟歴感謝六十年



一冊 ¥1,500 で頒布させていただきます。(送料無料)

岡田先生の歩まれた、壮烈な吟詠人生の記録です。大変貴重な詩吟草創期の指導者の先生方や、出来事が豊富に記載されています。魂のこもった記念本と言えますしよろう。

お問合せは、近畿地区事務局長

石井岳粹 まで。

〒590-0132 堺市南区原山台

一―六―二―三〇一一

平成21年度

執行部会議



会議風景



懇親会・乾杯

懇親会幕開けは、知立の山車文楽披露



副会長・岡田岳龍先生
から、丁寧なご説明



会議の翌日は、観光・研修を兼ねて、熱田神宮元宮・氷上姉子神社、師崎方面に足を伸ばしました。
下・〔あゆちがた〕碑の前で奉納吟。



二月二十七日（金）

平成二十一年度「執行部会議」が名古屋市・クラウンホテルにおいて開催され、今後の活動方針や要望など数多くの議事が審議されました。定刻よりやや早く午後十二時四十五分に始まり、午後四時三十分まで、建設的意見が多く出され、自由で活発な会議は、ヴォックス発展へ熱気が充満し終了しました。具体的には、収支報告・二十年度吟詠決勝大会収支及び内容報告・二十九回CD配分・規約の変更・二十一年度事業計画・予算案・二十二年度吟詠決勝大会・ホームページ開設計画、会報の充実・新しい会員バツジ他建設的意見が多く出され、自由で活発な会議が行なわれ、ヴォックス発展へ熱気が充満し終了しました。会議出席者は、二九名。翌日二十八日は中部地区の会員も参加して、愛知県の旧蹟など、研修を兼ねて観光を楽しみました。

地区役員の皆様、お世話になりました

五丁の力は 戦争の路を開き

八陣の図は 兵機の間を啓く

七竅混沌 氏に頼いんと謀り

三分割地す 蝸の蝸産

誰か南柯に向かつて 夢に粟を炊ぐ

北斗に育しく 金玉を堆くせんと思ふ

今朝荒塚 尽く蒿萊

昔日蒼生 杼軸を愛う

明月人に随って 遠汀に墮ち

暮雲恨みを牽いて秋麓に平かなり

昔は石鏡を封じて照りすも 光無く

草は琴台を没して 絃続ぐ無し

曠古長く壞る 巢許の流

高風独り振う 箕穎の曲

提供 播磨地区事務局 嶮本賀求道

『重九』 室町 雪村友梅

巴国霜風曉未嚴

籬辺無酒憶陶潜

白衣知是送不送

黄菊情多拈更拈

逸興東帰雲海外

浩歌西遠雪山尖

明年兄弟登高楽

水石蕭蕭竹半欄

巴国(はこく)の霜風曉未だ嚴ならず

籬辺(りへん)酒無くして陶潜を憶う

白衣知る是れ送るや送らざるや

黄菊情多くして拈(つ)んで更に拈む

逸興東のかた帰す雲海の外

浩歌西のかた遠し雪山の尖(さき)

明年兄弟登高の楽しみ

水石蕭蕭竹半欄(はんらん)

正会員 入退会

入会(平成二十一年三月) 中部地区 敬称略

濱田正道 (社) 関西吟詩文化協会

正州会会長

高柳岳仙 (社) 関西吟詩文化協会

千種支部長

平成 21 年度 吟詠コンクール 課題吟

- | | | |
|----|-----------|---------|
| 13 | 和歌・俳句 | ※自作を除く※ |
| 12 | 芳野 懐古 | 藤井竹外 |
| 11 | 名槍日本号 | 松口月城 |
| 10 | 酒に 対す | 白 居易 |
| 9 | 折楊 柳 | 楊 巨源 |
| 8 | 春を 探る | 戴 益 |
| 7 | 京都 東山 | 徳富蘇峰 |
| 6 | 九月 十日 | 菅原道真 |
| 5 | 生田に宿す | 菅 茶山 |
| 4 | 寒 梅 | 新島 襄 |
| 3 | 河内 路上 | 菊池溪琴 |
| 2 | 富 嶽 | 乃木希典 |
| 1 | 春夜洛城に笛を聞く | 李 白 |

正会員バッジが出来ました。



〇九〇―三九五〇―二〇二六
三重県四日市市日永一―一四―一三三

かねて懸案の、正会員バッジが、完成しましたので、御案内申し上げますと共に、希望者(正会員)に頒布させていただきます。価格 一個 三千元 申し込み先、各地区(本部長を通じ) 総本部 事業委員 谷口松峰 宛、

全国 地区本部行事、催事年間計画

3月							
4月	4月12日(日) 群馬国壮流 吟風まつり		4月19日(日) 東京地区 吟詠のつどい				
5月	5月3日(日) 東京地区 吟詠コンクール				5月31日(日) 播磨地区 吟詠コンクール	5月31日(日) 西中国地区 吟詠コンクール	
6月	6月7日(日) 近畿地区 吟詠コンクール	6月13日(土) 群馬地区 VOX 役員会議	6月21日(日) 北関東地区 吟詠コンクール	6月21日(日) 神奈川地区 吟詠コンクール	6月28日(日) 信越地区 吟詠コンクール		
7月			7月19日(日) 群馬地区 吟詠コンクール			7月26日(日) 群馬地区 会津研修会	
8月	8月2日(日) 中部地区 吟詠コンクール						
9月							
10月	10月3日(土) 課題吟詠CD吹込 東京	10月 4日(日) (予定) 吟詠コンクール 全国決勝大会 東京江戸博物館ホール					
11月					11月15日(日) 中部地区 邦楽芸能大会 江南		

第9回全国吟剣詩舞のつどい(名流大会)は、平成23年、東京地区開催です。

下座のいんぎょ

和装の、紋付・袴の着付けについては、正式な場面において着装の機会が多いのですが、一般的に、吟詠の人達には、その姿に少し問題が感じられます。剣舞・詩舞をされる方に問題が有っては論外のことです。ここでは、大事なポイントとして、二点をお示ししましょう。

一に、襟元をきちんと締め。二に、袴を腰高にはかないことです。

※体格(背の長短・肥満・痩せ型)がありますので、その人に合わせて着こなします。

※紋付の内に、内着・タオル・サラシなどで凹みを直し、やや胴太に着付け、表面がダブつかない様にし、襟元は、安全ピンで固定することも良いでしょう。

全国吟詠コンクール決勝大会

おめでとう

文部科学大臣賞

中部地区本部代表

受賞者 沢田 千鶴香

関西吟詩文化協会 名古屋支部所属

吟歴八年

全国決勝大会に

【親子で臨んで】



現在、私の講師である母の、日頃練習努力する姿や、その心打つ吟詠を家庭で見聞きしていました。母からの熱心な勧めで私が詩吟の道に入る決意をした時に立てた目標は、「感動を与える事の出来る吟詠者になりたい」...でした。吟歴八年でのコンクール出場を含め、積み重ねてきた経験を振り返れば、特別に日時を設けての指導をいただき、勉強できる環境を作ってくれた親先生、又先輩の方々に対して、感謝の気持ちで一杯で

め



す。親子で詩吟の全国大会に出場するのは、夢でもありましたのでこの度私が頂いた第三部での優勝と文部科学大臣賞・第五部の母の準優勝という結果はとても嬉しく母娘で喜び合いました。本当にありがとうございました。全国大会が名古屋で行なわれましたので応援に来て下さった会員の皆様にも温かいお祝いのお言葉をいただきました。ありがとうございます。母とともに歩む大好きな詩吟の道、今後ますます練習に精進して参りたいと存じます。

全国吟詠コンクール 一部

優勝	小塚 晃央
準優勝	山崎 仁見
三位	千田 大輝
四位	牛堂 巧統

ホームページ 開設 します。

ヴォックス音楽吟詠会の活動を詳細に広報して参ります、是非有効にご利用ください。

予定---平成 21 年 4 月中旬開設。

検索---ヴォックス音楽吟詠会・岩淵公胤・草薙典龍など---後日ご案内。

担当---総本部事務総局 三ツ谷静楼



吟詠コンクール 二部

優勝	唐木 さやか
準優勝	加藤 美紀
三位	渡辺 麻世
四位	小林 圭以子
入賞	津野 亜由美
入賞	越谷 桂子

〔南北朝の禅僧〕 雪村友梅に思う

播磨地区事務局長 燈本賀求道

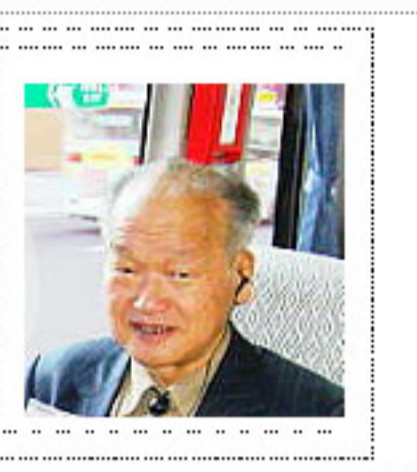
偶成 II 雪村友梅作

金鷄聲裡啓重關

對面巍巍萬壘山

一歩歩登孤絶頂

紅輪初上海雲間



南北朝時代、禅僧・越後の雪村友梅（1290～1346）

が、偶成『金鷄聲裡啓重關』を詠んでいる。私はこの詩が大好きだ。友梅は、中国・四川の奥地の神秘的情景を心に描き、帰国後、登山を始め、やがて萬壘の山や雲海の間に見つ赤な太陽が昇る景観として纏めたこの詩は、人生の指針を如実に喝破している。友梅は、十八歳で中国へ渡り、長安・成都・蜀を巡って、中国で多くの長詩を遺している。『岷山の歌』は、七言の三十六行詩。日本人の長詩は、大変珍しい。『岷山の歌』は、中国の重慶や成都・九寨溝・黄龍辺りの風景を詩に詠んでいる。私は二度訪れていて懐かしい。空海（774～835）は、入唐（804）し仏教を修得。帰朝後真言宗を開いた。中国において一千年前の日本人が、漢詩・漢文に精通していたのだ。

ヴォックス音楽吟詠会で、一昨年、草薙先生他諸先生たちと、李白記念館で友好の吟詠会を催したのち、無数の石灰石の滝や川・湖水の九寨溝・黄龍を訪れてその景色を鑑賞、東洋一空気と水のキレイな、日本人の最も好

む景観であった。生い茂る植物・岩盤の滝、川の流れ、友梅の詩が此処彼処に散りばめられ伝わって来る。手元の高度計は、手前の峠では3988メートルを指していた。富士山より高いところ

に居るのだ。雪宝頂が5588メートル、三千メートル級の山々が連なっていて、湖水に木の幹や枝が腐敗せず、沈んで静止している。不思議な世界である。石灰石の作用で静止画となっているのだ。普通は磐を削って小川が出来るが、磐が削られないで、微生物が付着しながら堤を造ってカラフルに、無数に形成される黄龍の小池。石灰石による地層や池や川の流れ、滝の水は、木の枝や葉っぱに堆積して、そのまま付着し成長している。九寨溝・黄龍の景観は正に私たち日本人の心の奥底に触れてくる大自然の気である。チベット騒動があった近くの四川は、四川大地震の被災地で、死者行方不明者八万七千人を越す。数千メートル級の山々や谷や湖は、珊瑚・貝殻の化石が各所に散らばっている。かつては、海の底であった由。「友梅」が、四川省の奥地を見事に描写した漢文の長詩。日本人が中国語で言葉のニュアンスや現地の人の心情を詠み、全然分らない漢字（岷岷・鏡鏡・鹵井・棋汗・鸞鸞・虹睨・曠古・箕穎）これらの字読めますか。その意味が判りますか。この詩を見た時の私は感動し今でもその鼓動が残っている。「友梅」のこの詩は、四川省の歴史や風景が、ふんだんに盛り込まれていて、岷山山脈から流れる岷江は、九寨溝や黄龍を水源に、成都や重慶を経由して上海へ流れる東洋一の長江

の源流である。

「友梅」は四十歳で帰朝。信濃・京都・豊後各地の開山となり、四十七歳の時、赤松円心の招きで播磨の金華山法雲寺の開山始祖となる。のち、建仁寺の三十世となり禅風を大いに高揚したのである。十ページに紹介の漢詩『重九』の巴の国は重慶。酒好きの陶潜と四川の情景を「明年兄弟登高の楽しみ、水石蕭蕭竹半欄」と詠じている。

『岷山の歌』前編 雪村友梅作

- 岷山岷山 天尺咫
- 岷水湯湯 滄万里
- 険隘攪り崆峒 鐵鐸の鋒
- 煙塵隔たり断ゆ 咸陽の市
- 寒暄候を異にして 自から仙都
- 氷雪空に嵌つは 太始よりす
- 崖前の鹵井 星芒を混え
- 谷底の甘泉 石髓を流す
- 琪珎錯落 鐵鉄に雜わり
- 芝草芬芳 蘭芷を生ず



野津 敦子
森山 恵美子
善茂砂 浩子
谷口 澄代
中須 澄代

近畿地区代表

吟詠コンクール 六部



優勝 鎌井 省吾
準優勝 江田花都子
三位 石田千代三郎
四位 三矢 鏡子

吟詠コンクール 五部

合吟 優勝チーム

感想文

私達が始めて合吟に参加したのは、十三年の第二十回近畿大会でした。その大会に優勝し、緊張しながらも、うきうきと全国大会に東京労働スクエア会場へと向ったことを、ついこの間の様に覚えていきます。合吟は、個人の吟と違い五人の呼吸がピッタリ合い、タイミングを合わせる事の難しさ、又回を重ねるにつれ恐さも加わり、反面楽しさも味わい、色々な壁にもぶつかりながら勉強させて頂きました。今回第二十回全国大会に再び挑戦する機会を得て、優勝させて頂き、五人にとって本当に身の引き締まる思いです。これから後に続く人達の為にも一層頑張りたいと切に願っております。本当に有難う御座いました。

善茂砂 滄風



瀬戸内海海岸近くに岩国市役所があり、錦帯橋は、そこから西に40キロメートル。又中国自動車道・岩国ICからほど近くの岩国城の南西9キロメートルに所在する。

西中国・本田天水先生から、表紙写真を提供して戴きました。錦帯橋の有る風景を、違った方向からご覧下さい。

広報委員

第三部（少年の部） 優勝・小塚晃央

こつかあまお

東京地区・源奏流吟詠会（埼玉）

敬称略

優勝感想文



僕は、「中庸」が大好きです。この大会で中庸を吟じ、優勝出来、すごく嬉しいです。これからも詩吟を続けていきたいと思いません。がんばります。



源奏流吟詠会

武藤源奏

姪が、子供達を連れ、大会を聞きに何度か来てくれておりました。ある日、晃央君が私の前に立って、「僕にも詩吟を教えてください。お願いします。」と。小学二年生の秋の事でした。一対一での稽古。私の話に耳を傾け、よく聞き入り練習しております。晃央君は、とっても自分に厳しく、納得の行くまで練習を致します。姪の話ですと、お風呂の中やトイレの中、気分の良い時には、鼻歌を歌いながら歩いているそうです。そんな努力が優勝につながったのではないかと思います。このまま長く吟詠を続けて行ってくれることを望みます。

吟詠コンクール 三部



優勝 沢田千鶴香
準優勝 大浦 恒子
三位 北山 則子
四位 堀 博子
五位 長谷川 悟

吟詠コンクール 四部



優勝 大久保 正義
準優勝 栗山 和彦
三位 青沼 シズ子
四位 三ツ谷五百枝
五位 伊東 礼子
六位 林 和人